

令和元年度 第3回北九州市指定管理者の評価に関する検討会議

日時：令和元年7月17日（水）

10:00～11:00

場所：本庁舎15階 15C会議室

1 開会

2 臨時員紹介

3 所管課に対するヒアリング（評価の検証）

(1) 玄海青年の家〔子ども家庭局青少年課〕

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

（構成員）

2ページの「施設の設置目的の達成」で、利用者増のためにさまざまな工夫をされて最高の利用実績となったのに評価レベル「3」とした理由を教えてください。

（所管課）

数字が劇的に上がったわけではなく毎年少しずつ微増を繰り返しているため、評価レベル「3」が妥当であると考えている。この微増で評価レベルを上げると、反対に微減でも評価レベル「2」に下げる必要が出てくるので、幅を持たせての評価である。

（構成員）

要求水準や目標値どおりであれば評価レベル「3」だと思う。もちろん増減はあると思うが、指定期間を通じて実績が目標を上回っているというのをどう判断するかだと思う。目標値に対して4.1%多いという定量的な視点だけであれば、評価「4」でも妥当と思われる。ただ、定性的なところも評価の対象なので、その部分で少し足りない場合は評価レベル「3」という評価も当然あると思うが、いかが。

（所管課）

近年の少子化の影響により、決まった小中学生の人数が減っている中で、独自に工夫して自主事業の実施や、企業の新採研修の受け入れ等、休みの期間を使ってもたゆまぬ努力をされているところは評価しており、今回は評価レベル「4」でもいいのかと思う。

（構成員）

定量的には評価レベル「3」が妥当だが、要求水準自体が更新前の実績とほぼ一緒で高いため、目標値もそれを上回る設定をしたのではないか。その上で、実績はさらに伸びて過去最高になったところを評価すると、やはり「4」が妥当ではないか。

（所管課）

おっしゃるとおり、もともとこの施設は市が直営でやっていたが、利用者は12年間上がり続けている。今回、ここまで来たということで、確かに評価を「4」にしてもいいと思う。

(構成員)

仮にこの評価レベルが「4」に上がると、得点が82点、総合評価は「A」になる。

(構成員)

5ページの「経費の低減」の評価は「4」にするほどか。達成率で見ると、平成30年度の光熱水費は2%減、総事業費だと0.5%減なので、そこまで達成できていないのではないか。こちらを「4」で評価するより、設置目的の達成の方が評価できると思う。

(所管課)

確かに、光熱水費の削減について努力していただいているが、結果に出てくる数字としては、さほど大きくはない。

(構成員)

利用者が増えている一方、光熱水費が減っているのは、かなり努力されていると思う。その辺をどう判断するのか。定性的なところで、他の施設や指定管理者に比べて頑張っているところがあれば、評価レベル「4」でもいいと思う。

先ほどの「施設の設置目的の達成」の評価レベル3と、「経費の低減」の評価レベル4の妥当性を併せてご検討いただきたい。

(構成員)

5ページ一番下の「食堂」の部分で、市が食事料金を設定して利用者からの実費で運用しているということで、これは1食あたりの金額を市が決めているということか。

(所管課)

協議を行い、その時の物価の上昇等を考慮して、このくらいで設定をしてほしいという要望を受けて、それに対して承認している。

(構成員)

要するに、指定管理業者の努力によらない部分であり、指定管理者の評価の根拠となることとは関係ないのではないか。

(構成員)

6ページの「収入の増加」について、玄海青年の家では評価していないのに、もじ少年自然の家で評価をしていないのはなぜか。

(所管課)

もじ少年自然の家は2年前に指定管理者の選定を行った際に、施設管理型の施設といえども使用料収入を得るという点で、管理する上で全く注意を払わなくていいというものではないだろうという内部的な意見もあり、評価の対象としたところである。今年度、玄海青年の家の時期指定管理者を選定する際には、評価項目に収入の増加を加味する予定なので、次回以降の評価対象には項目として入ってくる。

(構成員)

一般団体用のアンケートで、「利用したいですか」という質問に対し、回答の選択肢

が「またぜひ利用したい」「機会があれば利用したい」「利用してもよい」「わからない」「利用したくない」とあるが、選択肢は対象になるように順番を見直していただきたい。

## (2) 小倉母子寮 [子ども家庭局子育て支援課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

4ページの利用者満足度で、全般的に問題はないと思うが、入居者アンケート（H30から実施）の中で、「職員は必要な支援をしているか」のところだけが60%と若干低い。これはどういう理解をすればよろしいか。

(所管課)

このアンケートは、入所から概ね1年を経過した方を対象に行っているアンケートであり、入所自体は十数世帯あるが、1年経過すると、母数が少なくなり5人程度になる。そう思うという方と、どちらかというと思う方で3名である。

(構成員)

同じところで、必要な支援をしているかどうかだが、アンケートの自由意見でも、職員との関係を築くのがとても困難という意見があった。この辺がうまくやれているのか。満足している人が書いていないのか、その辺が気になる。

(所管課)

母子寮は、DVやお子さんの児童虐待など、かなり感情が傷ついた方々が入所される。そのため、最初は共感や傾聴というスキルがかなり必要であるが、入所期限に制限があり、原則3年以内には必ず退所をして、自分で仕事と子育てをしながら、自立に結び付けるための支援や指導が必要になる。

アンケートを取る1年後というのは、支援ばかりではなく、仕事やお金の管理など、自立に向けた指導に力が入ってくる時期であるため、こんなに頑張っているのにまた指導されたという形で受け止める入所者の方が一定程度はいると思われる。

(構成員)

アンケートのサンプル数が少ないので、この割合の隣に、差し支えなければ実数を入れていただくと分かりやすい。

また、自由記述のところ職員との関係性について幾つか意見があったが、施設の、あるいは入所者の特徴のようなものが多分あると思う。気になるのは、八幡母子寮と比較した場合に、何か違いがあるのか。入所される方々は割と共通した境遇の方だと思うが、もし小倉母子寮と八幡母子寮でアンケートの結果が違うとすると、そこは指定管理者の対応の違いがあるのではないか。

(所管課)

寮長が寮の方針を決めて支援員に伝え、支援員が実際に面談をする形式なので、寮長の性格が、節々に指導の内容や頻度といったところに反映してくると思う。

今回、小倉母子寮の方が若干辛めの意見は出ているが、八幡母子寮の方が寮長の経験も長いので結構しっかりと指導、支援をしてくださる。

（構成員）

小倉母子寮は、アンケートの自由記述の意見も細かく書き出されているが、八幡母子寮は自由記述にほとんど記述がない。そもそも自由記述の回答欄がなかったのか。

（所管課）

前回のヒアリングでも、アンケートの採り方について、支援をしてくれる方に見られるアンケートだと本当のことが書けないのではないかという意見があった。平成30年度からは、子育て支援課が直接アンケートを送り、子育て支援課に直接回答していただくよう変更したので、意見があれば指定管理者に遠慮せず書ける状況ではある。その上での内容なので、利用者の気持ちを反映していると考えている。

（構成員）

小倉母子寮のアンケートで職員に対する要望等が出てきている。職員の資質のことが書かれている評価シート7ページで、研修および参加人数が減ってきている。経験が長くなっているという理由もあるかも知れないが、それでもやはり相手の気持ちをくみ取ることが大事な仕事だと思う。その辺りの研修等が足りていないのではないかと、このアンケート結果を見て思ったが、その辺はいかがか。

（所管課）

情報や制度はどんどん変わるため、市としても、こういう研修があるときは、必ず積極的に行くようお願いしている。しかし、どうしても経験年数が長くなると、どうしても繰り返しの研修になってしまい、なかなか研修に行きづらくはなってくると思う。ただ、こういう傾向にはあるのかと思われるので、その辺は市としても注意しておきたい。

（構成員）

「就労時間を朝は7時半から」という記述があったが、これはここの独自の取組みとして、シフトの組み方を変えているのか。

（所管課）

独自の取組みで、小倉母子寮と八幡母子寮で違う。

（構成員）

例えば、働く人にとって少し負荷がかかるような勤務形態であるとか、経費節減のために剪定や除草を職員がやっているとか、本来的には、そこにはさぎほど重点を置かず、行政ができるのであれば行政に任せて、入所者の支援に重点を置いていただきたい。

（所管課）

入所者のお母さんたちは日中働いている方が多いので、職員に相談できる時間は朝早くか、帰ってきてからになるため、どうしても勤務体制として早出、遅出というのは複数名必要である。もちろん、早出の方は早上がりになるが、それをローテーションしながら、体調管理等には気を付けながらしていただいている。

また、剪定作業等は、実は八幡母子寮も小倉母子寮も、少年指導員という、男性の指導員が1名から2名配属されている。これは男性・女性のというか特質もあると思われるが、やはり機械作業や力作業が得意な部分があり、簡易な修理や作業であれば、わざわざ

わざわざ業者に頼まなくても、日中、お母さんたちが出ていった後の手が空いた時間等に工夫しながらしていただいている。もちろん、本来業務が疎かになるような作業は駄目だが、隙間時間等で対応できるものであれば、経費削減の観点から、市としてもお願いしているところである。

（構成員）

八幡母子寮と小倉母子寮で事業費の内訳の予算・決算を比較すると、小倉母子寮の人員費が予算に対してかなり抑えている。何人雇うか積算した上で予算を立てていると思うが、小倉母子寮の人員費の決算が安くなっているのは、実際に雇った人数が少なかったのか。1人当たりの単価はどれくらいなのか。

（所管課）

市から支払うお金は、国の単価に基づいている。こちら側から見ると、支出はあまり変わらない。要は、入所する世帯によって措置費が変わってくる。また、施設側から個人に払う人員費、給料は、指定管理者の就業規則等によって決まっているため、場合によっては寮の方針として、近年の平均入所世帯を見て予算を確保したものの、結果的に増えなかったということが考えられる。

（構成員）

この施設に限らず、指定管理の制度ができて15年以上になるが、更新ごとに指定管理料が減らされている。そうすると、指定管理者としては経費を圧縮するため人員費を削っていく。結果的に官製ブラック企業化していないかという話である。当然、行政としてはコストを抑えていただいた方がいいが、実際に働いている方の労働条件とか給与の面でどんどん削られていく。そうすると、最終的に誰も手を挙げなくなる可能性があり、全国的にも問題化しつつあると思われる。

小倉母子寮の話は、指定管理者が労働者に対して人員費をきちんと払っているか、どこまで所管課が確認できるかというのはあるが、指定管理者とコミュニケーションを密に取っていただきたい。ゆくゆくはそれが市民サービス低下につながる可能性もあるので、他の施設も含めて若干心配な点である。そこは指定管理者と一緒にあって、むしろ財政と闘っていただいて予算を確保するというスタンスでやっていただきたいと思う。

（所管課）

一つの尺度として、定職率というか、頻繁に人が入れ替わっていないのかは名簿で見られるが、ここ数年、そのようなことはない。一般的な施設とは違い、入所者との人間関係の構築が非常に大切なので、スタッフが頻繁に替わると事業自体も成り立たなくなる。そこは指定管理者もすごく配慮していると思う。

（構成員）

すぐにといいことではないが、施設の設置目的の達成が、福祉施設はほかの施設と少し違って、利用者数を増やせばいいという話ではない。これをどういう指標で評価するかは難しいと思う。色々工夫していただいているが、そもそも自立支援が目的で、自立にどう結び付いたのかを測るために形式的にしてしまい、どんどん退寮させるようなことになると本末転倒である。この辺の話は、福祉の業界とか、この世界で自立に結び付いたかどうかとか、自立支援の成果を測る指標みたいなものは議論されているか。

(所管課)

一応、入所者は上限の3年で退所されるが、小倉母子寮も八幡母子寮もアフターフォローをしている。ただ、母子寮に入所したことを隠したがる方もいらっしゃって、退所後の連絡先を強制的には教えてもらえない。電話の着信履歴や手紙が来ることさえも、次の再婚相手には知られたくないというケース等がある。しかし、母子寮の連絡先は必ず渡して、困ったことがあれば連絡するよう案内しているので、退寮者からの連絡があれば退寮後の仕事等を追えるケースはある。そういうものを積み重ね、どういうふうに自立に結び付いているかというのは、母子寮は、多分資料としては持っているが、まだ統計的には整理しきれていないと思われる。

(3) 八幡母子寮 [子ども家庭局子育て支援課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

「設置目的の達成」の評価レベルについて、八幡母子寮が「5」に対し、小倉母子寮は「4」だが、一番大きな違いは何か。

(所管課)

一番の違いは、実は施設長ご自身がSEP（自尊感情回復プログラム）という資格を取得して、自らDVや児童虐待を受けたお母さんと子どもに対して、回復プログラムを実施している点である。

(構成員)

受講料の助成はサービス向上としての取組みの一つだと思うが、あまりにもここで小倉母子寮と八幡母子寮とで目に見える差があり過ぎると、不公平感が出ないか。

(所管課)

受講料に関しては、有償の所と無償の所があり、寮から受講料を支払わずに受ける施設もある。例えば母子・父子福祉センターは一人親家庭の方に対して無料で受講できる講座が20種類くらいある。八幡母子寮の場合はプラスアルファとして、ムーブやレディス等の有償の所も、本人の希望があれば補助するもので、選択肢が全くないわけではない。確かに、八幡母子寮の方が若干手厚さはあるのかなと思っている。

(構成員)

小倉母子寮に入るか八幡母子寮に入るのかは、本人の希望なのか。

(所管課)

本人の希望もあるが、その他、今9割、DV被害者が入所しているが、八幡方面の方が小倉に、小倉の方は八幡に避難する傾向にある。要は夫の勤務地や住所と違う方面にするという使い分けがされている。ご本人の希望というよりは、どちらかということ身の安全のためである。

(構成員)

5ページの入所者アンケートで、回答した方のみを母数として良いのか。回答していない人はどう思っているのか。

(所管課)

八幡母子寮の回答者は4名だが、本来は対象者が10人いる。6名の方が、どういう思いで回答しなかったのかというのは確かにある。

(構成員)

その辺は、コメントで追加した方が良いのではないか。小倉母子寮は13人に対して5名の回答であり、回収率の低さもやや気になる。

(所管課)

一応無記名で、直接子育て支援課とやりとりできるようになっているので、匿名性については回答しやすいよう配慮しているが、利用者としては、子育て支援課とはいえども、どこで漏れるか分からないという心配はあると思われる。

(構成員)

そもそも、全体で10人程度だと、どうしても誰が書いたか分かるというところがあるので、難しいとは思う。

(構成員)

アンケートの採り方を変えて、回答率は変わったのか。

(所管課)

平成30年度から始めたので、まだ1年間しか実施していない。

(構成員)

以前の指定管理者に直接出す場合と、市に出す場合とで、さほど変わっていないように思われる。そもそも母数が少ないため難しい。本来であればこの辺も、アンケートはアンケートでいいと思うが、アンケート以外の利用者満足度を測る方法はないのか。その点をどう考えるかということところだが、難しい。

(所管課)

例えば、退所する時であれば、素直に意見が言える可能性はあると思う。退所後に個別に聞くという方法はあるのかなと思う。

(構成員)

ちなみに、大学の授業アンケートみたいなものは、10人未満の場合はやらない。要するに、誰が書いたかが分かる恐れがあり、学生が忖度してしまう可能性があるのではやらないという。それではどうするかというと、教員に任されているところもあるが、ワークショップ的に、お互いに意見交換をさせて、その授業で良かったところや改善点等を割と柔らかい雰囲気、学生同士で話させると、結構いろいろ出てくる。それを次にどう活かすかを考える。

それは結構、教員には言いにくいですが、友達同士なら話しやすいので学生の満足度が高い。記入式にすると少し形式張ってしまうので、いろいろな工夫をする余地はあると思われる。

今のような形で数字的に取るのは大事なことだが、アンケートは、より良く改善するためのものなので、数字が大事なわけではない。こういう施設は特に難しさがあるので、その辺を、すぐにとということではなく、指定管理者と一緒に考えていただければいいと思う。

(所管課)

寮の中でも、定期的に母の会みたいなイベントをやっているみたいなので、そういう機会に、意見交換するなど検討したい。

(構成員)

基本的には、入所者の方とは指定管理者の方々が日々話されて、担当課のほうが積極的に話をする機会というのは、ほとんどないのか。

(所管課)

我々子育て支援課はないが、入所を決定した各区役所の中の福祉事務所は、定期的に面談を行っている。

(構成員)

そこで何か、聞き出せるものはあるのか。

(所管課)

ただ、その時は、母子寮の施設長と区役所の担当者と本人の三者面談のような形になるので、自立に向けての計画等については話をするが、要望等はなかなか言いにくいと思われる。

## 4 意見交換・議論

### (1) 第3回目・とりまとめ

- ・ 玄海青年の家の「施設の設置目的の達成」のところで、年々増えているとのことだが、指定管理者の努力で増えているのであれば、評価レベル「4」でもいいのではないかという意見を出した。
- ・ 子どもの減少やキャンプの流行等の複数の要因が絡んでおり、指定管理者の努力がうまく切り分けられないため、どう評価するかが問題である。
- ・ 一方、企業研修などの受け入れは、今まであまり知られていなかった所にプロモーションしているという点で、指定管理者の努力だという気がする。ただそれが、青少年の育成なのかというと、設置目的とずれてくるというのがある。
- ・ 母子寮について、八幡母子寮の評価が高いのは理解できるが、その自尊感情回復プログラムというのは、逆に言うと、小倉母子寮にもなくていいのか。どこまでがプラスアルファなのか。このプログラムの有無で全然違う気がするし、小倉と八幡に差があっていいものなのか。これは点数というより、行政の役割だと思うが、このようなプログラムについて、小倉母子寮に勧めることは難しいものなのか。



- ・ 前回の会議でも、同じ設置目的を持った市の施設なのに、違う指定管理者が管理運営することで分断が生じていて、本来であれば良い取組みは、所管課が仲介なり交流しながら、より良いものについては取り入れていくという仕組みがあるといいが、次の指定管理者選定の際は競合相手になる可能性がある。
- ・ (事務局) 特に指定管理者は、ご指摘のように、企業のノウハウを活かして競争相手に勝つというのは民間が絡むが、これを評価シートにおいて評価した結果は公になるので、その情報提供は所管課からするべき。良い取組みがあればすべきで、指定管理者からすれば、競合相手の取組みを見て、なぜ評価レベルに差があるのかという会話が生まれることを期待したいと思う。今のご意見は意見として、所管課にはお伝えしたい。  
 なお、新規参入事業者が、前回の指定管理者選定時の提案書を、文書開示請求してくることもある。そこは、企画書なので、社印くらいしか隠せないため提案書を見ながら新しく提案してくるということもあるので、そこは行政として、ここはできる・できないというのを切り分けながらやってはる。なので、指定管理者を入れたということは、そういうサービスも求めているという前提にはなるので、所管課には少し工夫をしてほしいという、それは意見としてお伝えしたいと思う。
- ・ 施設によって差が生じ、利用者に不平等にならないようにしてほしいというのが一番である。
- ・ 特に補助金等の金銭が絡むところが気になる。類似施設の利用者同士が比較したときに、不平等感を感じないようにしてほしい。
- ・ そこは行政が一番考えないといけない。他施設の良い取組みは、可能であれば、他の指定管理者に横展開するというスタンスになるべきだと思う。
- ・ 母子寮のアンケート結果で、小倉母子寮にはコメントがあるのに、八幡母子寮にはなぜないのかが気になる。厳しいから書けなかったのかも知れない。  
 その辺に関連して言うと、施設の職員と入所者との信頼関係のような話は、母子寮が昔からのやり方を継続しているためにそういうケースが出てくるのかという気がする。例えば今、NPOなどがいろいろな手段でDV被害者のフォローや、ネットワーク作りをしている。それは、今までの行政のやり方とは違うやり方、柔らかいやり方である。それをそのまま取り入れる必要はないと思うが、何かそういう新しい取組みややり方、ノウハウやスキルみたいなものを、指定管理者が勉強しているのか。そのような取組みを取り入れたらどうなるかというようなことを考えているのかが気になる。
- ・ やはり母子寮というのが、仕事に就いて自立して、母子で新しい人生を歩んでいけるというところを目標にしていくまでの、それこそ3年間以内でという期限付きであり、そういう意味ではかなり、施設の目的の下での制約があると思う。ただ、そこを厳しきだけではなく、自尊感情も回復させるとかいう取組みでしているのかも知れない。
- ・ 小倉母子寮の方で、子どもだけではなく親にももう少し支援してほしいという意見もあったので、やはり子どもが順調に生活するということは、親にとっては元気の元になると思う。そこを、職員の方々はすごく頑張っているけれども、「じゃあ、子どもたちもこんなに頑張っているから、お母さんも頑張ろうよ」と、すぐ「頑張れ」だけでこられると、しんどくなるお母さんもいるという、その辺の親子間のバランスも取りながら、本当に難しい現場ではあると思う。
- ・ 小倉母子寮の方であれだけ正直な気持ちが書かれているというのは、いいことでは

ないかなと思う。そのことを評価するとするならば、そうやって出た意見に対して、施設はどう受け止めているかとか、どう対応するかというのがあるといいと思う。

- ・ このフィードバックの仕方は難しい。担当課が非常にうまくやらなければならないと思う。
- ・ 恐らく、ここでの議論は当然、担当課も感じていることだと思うし、先ほど、我々も意見を出した。また、指定管理者の評価指標をどう変えるかという話にも少し関連しているが、長い目を見て、どう評価指標を作るか、施設側、指定管理業者にどうフィードバックしていくかだと思うので、今、ここで出た意見を取りまとめて伝えていただくまではないかとは思ふ。
- ・ (事務局) 基本的に、選定前評価については、次の公募に向けて工夫できることは反映させる。ここでいただいた意見は所管課も理解し、課題感を持っていると思う。

## (2) ヒアリングしないものについての検討

- ・ 白野江植物公園の総合得点が80点を超えているが、利用者数が増えれば、当然収入が増えるというところだと思うので、基本的には、利用者数の設定がすべてなのだろうと思うが、利用者数増の要因が指定管理者の努力によるものなのか、インバウンドの影響であればマーケットの要因なのかといったところが難しい。当然、マクロの要因はどこかで収束していくと思うので、長期的に見たときにどうなるのかと思う。そのため、マーケットによる要因だけではなく、どれだけ指定管理者が努力してきたかというのは、所管課の方が気を付けて定性的にチェックできるようにしておいてほしい。今後、この評価レベル5と4では、結構大きく違ってくると思う。
- ・ インバウンド増というマクロ的な傾向があり、恐らく、地下鉄やクルーズ船でのPR等、インバウンド需要を捕まえる努力が結実しているということも含めての評価レベル「5」だと思う。今回は中間評価なので評価レベル「5」でいいかと思うが、目標数値設定をどう見るか、担当課としてどう判断しているかが気になる。
- ・ 白野江植物公園の6ページの「適正な管理運営」が「3」になっているが、やっていることを見ると、他の施設だと評価レベル「4」にしている所が多いと思う。色々な団体と連携していたり、マーケティングセミナーや他の観光施設の視察研修等、あまり他の指定管理者ではやっていない職員研修を実施したりと、かなり積極的に努力している印象も受けるので、評価レベル「4」でもいいのではないかという気もする。
- ・ もじ少年自然の家について、5ページの「経費の低減」のところ、玄海青年の家を評価レベル「3」に修正するならば、こちらも同様に評価レベル「3」が妥当だと思う。
- ・ 九州鉄道記念館は、2ページの「設置目的の達成」は、数値的には評価レベル「4」でも良いのではないかと思う。
- ・ 門司港レトロ観光施設9施設はブランディングの実施をすごく評価しているが、その結果どれだけの人に来て、どれだけイベントとして成功したのかが分からない。また、6ページ利用者満足度の表について、平成30年度の駐車場の満足度が低いのが気になる。この満足度は、指定管理者の努力で変わるものなのか。
- ・ 志井ファミリープールの3ページの満足度は、アンケート結果の「また来る」「また来たい」というところが根拠になっている。「また来たい」という意見は、プールの立地やプールそのもののハードなものも含めての話だと思う。しかし、アンケートには満足度に関する設問がこれくらいしかなく、指定管理者の取組みに関する

アンケート項目がないので、設計を少し見直すべきではないか。

- ・ 門司麦酒煉瓦館の3ページの満足度で、来場者アンケートの回答の選択肢に「満足」「やや満足」「普通」「やや普通」とあるが、アンケートの選択肢は左右対称であるべきなので、「やや普通」ではなく「やや不満」「不満」が適正ではないか。
- ・ 門司麦酒煉瓦館の5ページで、「駐車場利用台数が20%減少」とあるが、何か理由があるのか。
- ・ 門司麦酒煉瓦館の駐車場利用台数の減少については、赤煉瓦ブレイスの中のレストランの閉店で減っているのではないか。
- ・ 若松工芸舎の、2ページの「設置目的の達成」の評価レベル「3」の理由は何か。評価が難しいと思うが、利用率は結構下回っている一方で月額工賃が平均よりも超えていたり、アート活動に力を入れたりするなど定性的な取組みがあって、これをどう評価するか。最近、このような障害者施設も、獲得競争みたいなのが激しくなっているような話を聞くが、そうすると、この利用率が今後下がってくる可能性もある。
- ・ 門司図書館と戸畑図書館の「経費の低減」の項目で、光熱水費と再委託料の低減を行って削減した予算を他の業務や提案事業、新しいサービスの提供に充てた点を評価していると思うが、全体に占める割合やそれぞれの目標値の記載がなく、数値的に予算と実績が示されていないため、評価レベル「4」の理由として不十分ではないか。
- ・ 同じく門司図書館と戸畑図書館の「平等利用」の項目の評価も評価レベル「4」となっているが、その根拠が分かりにくい。この評価の理由だけでは「3」が妥当ではないか。

## 5 次回会議の説明

## 6 閉会